

2018年7月15日(日)に「中検フォーラム」の集いを開催いたしました。

日時・場所 2018年7月15日(日) 13:00~16:00
日本中国語検定協会 事務局

プログラム ○挨拶 (理事長 上野 恵司)
○中国語検定試験について (副理事長 張 勤)
○日本の中国語教育と各種資格試験について (副理事長 内田 慶市)
○2017年度(第92・93・94回)中検試験問題に対する評価と意見
(山梨大学 町田 茂)
(愛知大学 荒川 清秀)

第15号は特別号として、上記プログラムの内、理事長の挨拶、中国語検定試験について、及び2017年度(第92・93・94回)中検試験問題に対する評価と意見を掲載いたします。

○挨拶

検定試験を始めたころ

日本中国語検定協会理事長 上野 恵司

猛暑と申しますか、酷暑、極暑の中をお集まりいただきありがとうございます。企画の段階で気候のことを考慮しておくべきであったと反省しております。

わたくしたちの協会はただいまのところ理事9名、評議員17名、監事2名の役員と、事務職員5名で運営していますが、これだけでは多岐にわたる中国語教育の現場の状況や学習者の動向を把握しきれものではありません。そこで日頃熱心に教育に携わっていらっしゃる方々のご協力を得てわたくしたちの事業をよりよいものにしたいと考えて組織したのが、この中検フォーラムでございます。

本日は突然の呼びかけで、また会場の都合もあり、お集まりいただいた人数は限られておりますが、登録いただいておりますフォーラム会員は現在のところ239名に及んでおります。

ところで協会役員の中で、またフォーラム会員の名簿を一覧いたしましたところ、どうやら年だけはわたくしがいちばん上のごようですので、協会発足時は呼びかけ人の中でいちばん若かったはずなのですが、年寄り風を吹かせて試験実施にいたる当時の事情を少しばかりお話しして開会のご挨拶に代えさせていただきたいと思っております。

第1回の検定試験を大阪で実施したのは1981年の秋でしたが、実はその13年前の1968年に東京と大阪で検定試験を実施しようとする動きがありました。主唱者は当時、というよりも戦中、戦後の長い期間、日本の中国語教育界をリードしてこられた倉石武四郎博士で、東京では藤堂明保先生、大阪では香坂順一先生を中心に実施の準備に当たっておられました。

ただ、この試験は当時の日中関係やさまざまな難しい社会事情があって、結局は「流産」に終わってしまいました。東京では藤堂先生がかなり早い時期に中止を決断されましたが、大阪は香坂先生が試験当日まで実施の方針を堅持され、わたくしも試験監督に当たるため会場まで赴いたのを記憶しています。

ところが、会場には早朝から実施に反対を唱える人たちが大勢押し寄せて反対の叫び声を上げたりビラを配ったり、あちこちで試験を受けにきた人たちと小ぜりあい起きたりする始末でした。そんな次第で、際の際になって、混乱を避けるためにやむを得ず中止の決断をせざるをえなくなったわけです。

ところで、今日では考えられないことですが、この試験の「聴き取り」の吹き込みにずいぶん苦労しました。全国を見渡しても、なかなか優秀なネイティブの先生が見つからないのです。結局、当時天理大学に勤めておられた高維先先生に男声をご担当願うことになったのですが、同じ関西で女声の吹き込み者が見つかりません。そこで、お茶の水女子大学ほかで講師を務めておられた水世婦先生をわざわざ東京からお呼びすることになりました。録音場所は当時としては最新鋭の設備を有していた関西大学のLL教室を借用し、たまたまわたくしが同大学に勤めていた縁で日本語部分の吹き込みを担当しました。きっとひどい関西なまりであったに違いありませんが、幸か不幸か、録音盤は日の目を見ずに行方知れずになってしまいました。

試験は中止になりましたが、そのままではせっかく受けようとしていた方々に申し訳ないというので、大阪では当日の試験問題を受験者にお送りし、後日その解説をする会を催しました。

わたくしたちとしては、この催しをもって一つの区切りをつけるつもりでいたのですが、何人かの熱心な参加者から、是非この勉強会を続けてほしいという申し出があり、これに応じて講習会を開くことになり、会の名称を「愚公会」と名づけました。「愚公山を移す」の「愚公」ですね。

愚公会は単に講習会を主催するだけではなしに、授業を担当する講師陣の研鑽の場としても特色のある集団であったかと思います。わたくしも香坂先生のお手伝いをして、教壇に立つとともに、カリキュラムの作成や教材の準備に当たっていましたが、本日ご講演いただく荒川さんはまだ学部の学生の時からこの会に参加され、のちに講師を務められました。内田さんはもう少し後だったでしょうか。

愚公会の活動が10年余り続いたところで、せっかく勉強したのだからその学習成果を測る場がほしいというので始めたのが1981年の第1回検定試験で、会場は大阪のみで、受験者は全級（当初は全4級）合わせて60名でした。

折から、中国の改革開放の時期に重なり、日中間の往来が盛んになるとともに、中国語学習者は急増し、検定試験参加者も徐々にふえ、会場も全国各地に設けられるようになったので、1985年秋の第9回検定試験から本部を東京に移し、今日に至っています。

○中国語検定試験について

日本中国語検定協会副理事長 張 勤

ここでは発表者が認識する「中国語検定試験（中検）」の特徴と置かれている状況について概観する。

主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とする「中検」は、もちろんのこと外国語学習の理論と法則と深く関わっているので、中検の特徴については外国語学習のことから考える必要がある。

日本は現在外国語の学習については四技能の習得がよく問題にされる。すなわち、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことの四つだが、実は、一つの外国語を運用するためには、この四つではまだ足りない。日本人が母語の日本語を、中国人が母語の中国語を運用するなら、この四つの指標を使ってその運用能力を測ればよいのだが、日本語を母語とする人が中国語の、中国語を母語とする人が日本語の運用能力を測る際には、母語と外国語の関係を処理する能力をも見なければならない。誤解を恐れずに言い換えれば、「訳すこと」を見なければならない。

訳すことへの能力は、すでに母語をマスターしている者が外国語を学習する際に非常に大切である。なぜなら母語の経験をもとにして外国語を学習するからである。例えば日本語で話す時に日本語のネイティブスピーカーは、相手との関係を図りながら、失礼にならない言葉を選んでコミュニケーションを行ったりするので、中国語を学習す

る場合も、失礼にならない言葉はどれか、自分の気持ちをピッタリ表現する言葉はどれかについて、日本語との対応関係で覚えて行くことになる。これが訳すという能力である。読む、聞く、話す、書くの四技能は、いずれも訳すという能力が必要である。

「中検」は、特にこの訳す能力を重要視し、それを測ることに力を入れている。例えば、筆記試験の第5問が訳す能力を測ることに特化した問題である。以上、見てきたように、「中検」は、単に四技能のみを測る他の検定試験より、より正確に学習者の外国語能力を測ることができ、今後どのような方向へ学習を進めればよいか、信頼できる指針となる。

次は、四技能について、「中検」はどのような配分で設計されている検定試験かを見てみよう。これを見るためには、外国語学習における「運用能力」と「読解能力」についてしておく必要がある。簡単に言えば、外国語で道を尋ねたり、友達と話したりするようなアウトプットのな外国語の操りは運用に関わる能力であるが、雑誌や新聞を読んだり、テレビを見たりするようなインプットのな場合は読解に関わる能力である。この二つの能力を発揮するのに必要な語彙、文法などの範囲や熟練度が異なる。「運用能力」は、高度な熟練度が必要だが、学習時間や質によって語彙や文法の量と範囲が限定される。「読解能力」は、場面や前後関係などある程度ゆっくり考えることができ、必要な熟練度は「運用能力」ほどではないが、母国語の知識や社会常識などによって広くそれぞれの場面の外国語を理解することができる。図示すれば次のようになる。



すなわち、運用能力は運用できる語彙、文法によって実現されるが、読解能力はさらにより多く理解すればよい語彙、文法によって実現される。四技能で考えれば、話すこと、書くことになればなるほど、運用能力に傾き、読むこと、聞くことになればなるほど、読解能力に傾いていく。(書くことと聞くことはそう単純に論じられず、より分析する必要があるが、ここでは深入りしない。)

「中検」は、運用能力だけではなく、読解能力をも測る、バランスのよい検定試験である。下の級になればなるほど、運用能力を測る問題が多くなり、上の級になれば読解能力のウェイトが高くなる。よく3級は受かったが、どうすれば2級にチャレンジすることができるか、といった質問を受けるが、「運用能力」と「読解能力」の関係をよく理解して、「運用能力」をしっかりと固めつつ、「読解能力」を高めて(広げて)いく、というのがいちばん合理的な方法ではないかと考えられる。

いま、インターネットが普及し、学習形態も多様化している。ネットで簡単に外国語の映画が見られるし、またスマホでいつでも音声が開けて、文章が読める。さらにSNSで日本にいながらも外国人とチャット友達になれる。同時に、外国語学習の目的も多様化した。仕事や就職のために学習する人もいれば、単に趣味として学習する人もいる。

しかし、いずれにせよ、外国語学習の本質は変わることはない。以上見てきたようにこの外国語学習の本質を科学的に捉え、全面的に学習者の能力を測る「中検」が学習のいちばんよい助けとなり、正確な指針となるだろう。

○2017年度（第92・93・94回）中検試験問題に対する評価と意見

愛知大学 荒川 清秀

この7月15日に行われた中検フォーラムで、わたしは昨年度の検定問題の講評を依頼された。実は、今から何年か前にも検定問題の講評を2年にわたって頼まれたことがあり、今回どれほど変化があったかも興味があり、喜んでお受けした。検定はわたしたちにとって、教え方を反省するよい機会ではあるが、同時に出题者側からすれば、現場の教学をどのくらい反映しているかを知るよい機会にもなる。以下、準4級から順にリスニング、筆記の順で述べていく。リスニングに出てくる文法事項については基本的に触れていない。これと筆記に重なり、あるいは筆記へのヒントがあるとしても、そこまで聞き取れる受験者は筆記も解けるであろうと考えるからである。

以下、（ ）内の数字は解答率。

準4級リスニング

92回

①-1の正解③huǒは半三声のためかhuóと紛らわしい。正解は③huǒ(25.0)だが、正答率も低く、逆に②huó(52.8)が前者の2倍であった。これは単独で出す場合の第3声は下げるだけでは聞き取りにくいということである。(7)と(9)は-nと-ngの違いを問題にしているが、(7)の正解yīnyuè(音楽)は他の選択肢yīngyuē(应约)yīnyuē(隐约)とは声調が違ふし、(9)の正解gāoxìng(高兴)はgāoxīn(高薪)とは声調の違いでわかる。-nと-ngを問う問題はかつて単音節で二つも出ていて、わたしが問題評価委員のとき批判したことがあった。その後、一つになり、今ではなくなった。鼻母音の違いは意識すべきだが、成人した日本人に聞き分けはほとんど不可能だし、これがわからなくても単語の意味は文脈からわかる。(逆に発声は単に「あんない」と「あんがい」の違いぐらいではだめで、-ngの方はのどの奥でかなり共鳴音が響かないと通じない。)準4級のレベルでこの違いを聞き分けることにどれほど意味があるかわたしは以前から疑問を感じていた。したがって、現在の出題形式は妥当である。

②-4は“七”と“一”が紛らわしいということを出しているようだが、そんなに紛らわしいだろうか。(6)の名字をたずねる答えの“您贵姓?”はそれほど使われるのか。答えは“免贵姓王。”か?わたしはテキストでは“你怎么称呼?”を出している。

93回

①-5の“热”reはもう少し摩擦音を入れた方がleと紛らわしくなくてよい。94回の①-14ではより摩擦音が聞こえる。(6)のhuoはhoっぽく聞こえる。houはそうでもないが。(7)“速记”“四季”のsuとsiは声調パターンが同じなので、正解が“四季”(47.0)に対し“速记”(46.8)が拮抗している。しかし、これは聞き分けてほしい。(9)の正解“时间”(58.0)に対し“席间”(28.8)は、けっこう紛らわしい。そり舌音が浅いとxiに近く聞こえる気がした。

②-1「2時間」の他の選択肢①②“两星期”“两小时”はどちらも“个”を入れて、“两个星期”“两个小时”とすべきでは。なぜ“个”を外した答えを出したのか。(4)「1010」は準4級では難しい。「1100」か「1001」を出すのが順当。(9)の正解③“哪里的话!”はそんなに使うのか。

94回

①-3の正解páoは選択肢にはないがháoに聞こえた。(14)のreはひびきをはっきり聞こえた。

②-1は“一”と“七”はともかく、“十”と“四”は中国人の方言話者が間違いそうな問題で、日本人には意味がないのでは。

4級リスニング

92回

①, ②ともに、単語もほぼ4級レベルで、すなおな問題である。以前は3回繰り返したような気がするが、今は2回のみ。しかも、通して2回はややきびしいか。②の前半は登場人物の名前(小芳, 小军) ぐらいヒントで出してもよいのではないだろうか。とりわけ後者はそれほど多い名でもないのだから。

★★後半はお母さんが働かず、小学校1年生の我が子の送り迎えをするということになっている。これは一般的な現象だろうか。

93回

①, ②とも単語はほぼ4級レベルで、すなおな問題である。②-(3)の問い“医生怎么跟小李说的?”に対する答え「使役文による命令の間接化の否定」“不让她吃药, 多喝水, 多休息。”は答えられると思うが、本当にわかっているかどうかは怪しい。この問題については荒川『動詞を中心にした中国語文法論集』(白帝社2015) p. 269-291を参照。

94回

①, ②ともに単語もほぼ4級レベルで、すなおな問題である。

3級リスニング

92回

①-(2)“免税店”は難しいか。(3)“汉语比英语难多了”の“多了”は=“得多”。筆記③-(4)の“比以前…好多了”は変化の例。この2つの違いは意識して出しているのか。

93回

①“批评”“样式”“(历史) 题材”は難しいか。“旅游”とこのあと94回の“旅行”の違いは?

94回

①-(9)“车站”はよく出ているが、どんな駅か。日本でいう「駅」は“火车站”である。

②「レストラン」はなにを使うか。92回から94回では“餐厅”“饭店”どちらも出ている。

→荒川『中国語を歩くパート2』(東方書店2014) p. 21

(8)“爸爸为什么让我们先别去游泳?”の文は「命令の間接化の禁止文」。説明が必要。

文法 文法は文法項目ごとに、準4級から3級までを通して書く。

助動詞

準4級の助動詞は“会”のみのよう。不[会]开车。94-③-(10)

4級になると、“会”と“能”の違いが問われる。

能游一百米了。92-②-(1) (49.5) “会” (44.1), 满18岁以后才能开车。94-②-(1) (63.2) “会” (30.9)

あと4級になると“可以”と“想”が出てくる。

可以抽烟吗? 93-②-(9), 我想在银行工作。94-⑤-(5), 可以做朋友吗? 92-④-(5)

★★④の長文は外国人が中国人の子どもと友だちになろうというシーン。ただ、中国人の子どもが上目線。不愉快な内容。

さらに、3級になると可能性の“会”が出てくる。

不会下雨吧。94-②-(8)

★準4級で“不会开车”を出し、4級で“能开车”を出し、3級で“不会下雨”を出すのは無理のない展開である。

あと、“可以”92-④-(5), “打算”94-③-(4), “一定要再来一次”93-③-(5)が出ているが、全体に助動詞の出し方が少ないように思える。より意識的に多くの助動詞を出してもよいのでは。

前置詞(フレーズ)

準4級 “在”

我们在哪儿吃饭。93-**3**-(12) (69.8), 我在家吃饭。94-**3**-(13) (70.2)

★前置詞フレーズを動詞より後ろに置く誤答は約2割強だが、これは引き続き出題してほしい。準4級での前置詞は“在”だけだが、これを4級以上で作文として出題すると意外と“在”を落とす者がいる。

4級 “在”は相変わらず出ている。“用”もよく出ている。

在哪儿吃午饭? 92-**3**-(9), 在车站等着你呢。93-**3**-(9), [在] 机场等飞机。93-**4**-(1) (87.5)

[在] 电视里看到了。94-**4**-(3) (60.4), 用这块手表打电话。93-**4**-(3) (65.6), 用手机发短信。94-**3**-(6) (75.9)

★93回では“在”の問題が二つも出ている。94回の正答率が低いのは、「テレビで」という表現に慣れていないからだろう。

これら以外にもさまざまな前置詞が出ている。

对…感兴趣 92-**2**-(2), 对…没兴趣了 93-**4**-(5), 跟她一起去 92-**3**-(2), 跟朋友一起去 94-**2**-(7)

★“对”“跟”の正答率も比較的高い。

离车站近。92-**3**-(7) (93.1), [离] 公园很近。94-**2**-(2) (72.5) <空間>

[离] 暑假还有一个。93-**2**-(4) (48.1) <時間>

★“离”の空間用法は正答率が高いが、最後の「時間関係」になると半分くらいになる。時間(…まで)は3級で出してもよいのではないか。

从前边走来 93-**4**-(2) (44.1)

★“从”の正答率が低いのは、後ろの動詞“走”に方向補語“…来”がついているからかも知れない。

[对] 我说 94-**4**-(4) (76.9)

★“说”の話し相手を示す前置詞は“跟”や“和”が普通だが、“对”を選ぶ人が多い。ここは選択肢に“跟”や“和”がないからだが。

3級 ★“给”が3級になって初めて出てくるが、正答率が高い。4級でもよいのではないか。

[给] 孩子们讲故事 93-**2**-(1)

每天早上在附近的公园跑步。93-**5**-(5), 在家看了三个小时电视。94-**3**-(6), 用英语写过信吗? 92-**5**-(1)

正为这件事着急呢。94-**2**-(1) (20.7)

★“为”はともかく、“为…着急”の文型は3級では難しい。正答率も低い。

到…去(…へ行く) 94-**4**-(2) (40.7)

★これは、“到”を前置詞として教えるか、動詞として教えるかの問題がある。荒川『動詞を中心にした中国語文法論集』(白帝社2015) p. 182-193を参照。

疑問詞(表現)

準4級 [几] 点 92-**3**-(6), [哪儿] 92-**3**-(8), 星期 [几] 94-**3**-(9) ★順当

还是 93-**3**-(10) ★選択疑問は難しそうだが、これは意外と簡単だし、よく使うので早くから出してもよい。

4級だと以下のものが出ている。

[什么] 时候 92-**2**-(9), 怎么还有没来呢。93-**3**-(8), [多大] 岁数 94-**2**-(5)

[为什么] 不同意 94-**2**-(9), 还是 94-**2**-(10)

疑問詞+也 哪儿也不想去。92-**3**-(8), 什么也不想做。93-**3**-(7) ★正解はどちらも20%台。3級でもよい。

3級 什么时候 93-**3**-(5), 怎么也 94-**3**-(1) (79.1), 想吃多少就拿多少吧。94-**3**-(9) (61.6)

★最初のは疑問詞の不定用法(いつか)。これは難しいかも。最後の疑問詞の呼応も難しいかもしれないが、3級で出題するのは無理ではない。

副詞

準4級 “也” 92-**3**-(10) (85.2), 93-**3**-(13) (89.7) ★準4級で“也”を問うのは順当。

“都”は部分否定でしか出題されていないが、「部分否定」は現実にはそれほど使われているわけではない。試験のための出題という感がある。少なくとも準4級では出さなくてよいのでは。

我们不都是留学生。93-**3**-(15) (30.4) “都不是” (49.8)

“不太” 92-**3**-(15), 93-**3**-(11) ★これはよく出ているし、出すべきである。

4級の副詞では以下のものが出ている。

没来 94-**5**-(1), [还] 没吃 92-**2**-(10), [再] 来 92-**2**-(4), [再] 说一遍 93-**2**-(5), 一起 93-**2**-(3)

又便宜又好吃 93-**5**-(1) ★これらのできは概してよい。

3級の副詞はかなりバラエティに富んでいる。

“才” 他讲了好几遍,我才听明白。92-**2**-(8) (52.5) “就” (38.8)

我等了三十多分钟,她才来。93-**2**-(2) (80.7) “就” (11.0)

我们十点就来了,可是他十点半才来。94-**2**-(3) (84.2) “就” (6.6)

★“才”は、時間では正答率が高いが、動量については低い。学習者は前者については慣れているということか。前者は4級でもよいように思うが、後者は3級が順当であろう。

从来没住过院。92-**3**-(5) (66.0), [还] 联系不联系 93-**2**-(4) (66.6)

只是 93-**2**-(10) (36.7) ★これは難しく、“可是” (36.6) もいた。

一直 93-**4**-(4) (74.6), 有点儿 94-**2**-(2) (70.0) “一点儿” (24.4) もいた。

必须 94-**4**-(4) (60.0), 又红又亮 94-**4**-(5) (80.8), 差点儿忘了 94-**4**-(6)

★“必须”はあまりなじみがないかも。“又”は() 红 () 亮となっていて設問が簡単。“差点儿”は答えの文に入っているだけ。

量詞

準4級 支(铅笔) 92-**3**-(7), 本(词典) 93-**3**-(9), 把(伞) 94-**3**-(8) ★順当

4級 件(毛衣) 92-**2**-(8), 家(书店) 92-**4**-(1), 条(裤子) 93-**2**-(1), 张(电影票) 94-**2**-(4) ★順当か。

3級 幅(水墨画) 93-**2**-(3) (60.8), 对(夫妇) 93-**4**-(1), 批(留学生) 94-**2**-(9) (6.8)

★量詞は3級になると急に難しくなる。ここはもう少し考慮してもよいのでは。たとえば、“对”よりは“双”をとる名詞を聞くとかである。

形容詞文

準4級 这个房间非常干净。94-**3**-(15) (91.8)

★出題のねらいがわからない。準4級ではさらに形容詞文(過去)の否定が出ている。

93-**3**-(6) 「昨日は寒くなかった(昨天不冷)」の正答率は(57.1)。“没有”(19.8)，“不是”(22.1)であった。

★形容詞は過去でも変化しないという認識を持っていないと容易に“了”を使ってしまう可能性がある。これは中検でしか出せない問題である。

存在を表す“有”と“在”

★これはもっぱら準4級でのみ出題される。

93-**3**-(8) “银行 [在] 宾馆的旁边儿”では“在”(80.9)，“有”(17.6)と圧倒的に正解の“在”を選ぶものが多かったが、94-**3**-(6) “书架上 [有] 一本书”では“有”(61.0)，“在”(38.3)と“在”を選ぶものもそれなりにいた。

3回だけであるが、“有”による存在文の方が間違いが多い。これはどこに原因があるのか考えてみなくてはならない。

二重目的語構文

4級 给了我很多礼物。93-**3**-(5) (89.6), 教我们汉语。93-**5**-(5)

★学習者にとって二重目的語構文は英語の連想が働くのかそれほど難しくないようだ。

連動文

★よく出ているが、これは動作の行われる順序か、前が方式かの2タイプに限られる。できも悪くない。

準4級 星期天去公园玩儿。92-3-11，去商店买东西。94-3-14

4級 明天坐飞机去大连。92-5-3，坐地铁上班。93-3-4，先去饭店吃饭吧。94-3-7

3級 每天坐地铁上班。92-5-3

兼語文（使役）

4級 妈妈让我去买东西。94-3-10 (87.9) ★よくできているが、この文に対する理解ができているかはあやしい。これに対応する日本語は、「母は私に買い物に行かせる。」ではなく「母は私に買い物に行くよう言った。」である。→“妈妈让我买东西去。”も可か？

兼語式は以下の3級でも出ているが、“让”による使役文が中心。他の動詞は“帮”のみ。

3級 帮我看一下行李。93-3-4，让我再考虑考虑。92-2-4，让我一个人去爷爷家了。94-5-1

兼語文の否定

妈妈不让我玩儿游戏。93-3-6 ★これは「お母さんがゲームをするなど言った。」という意味にも取れる。

受け身（被字句）

4級 被人偷了。92-3-10

★受け身はほぼできている。次の3級になると、“让”も出ているが、“被”の方が受け身だとわかりやすいということか。

3級 大树被台风刮倒了。92-3-10，被人骑走了。94-3-10，让大家吃了。94-3-5

“把”字句

★“把”字句は3級から出題されるが正答率は高い。“忘在”が続けて2回も出ている。

3級 把手机忘在电车上了。92-2-3 (91.3)，把日元换成人民币了。92-3-2，把钥匙忘在家里了。93-3-7
把这件事告诉他。94-3-7

時を表すことばの語順

準4級 每天几点上班？93-3-14 (78.7)，星期天去公园玩儿。92-3-11 (63.2)

4級 明天几点上课？94-3-3 (82.9)，每天晚上十一点睡觉。94-5-4

★回により違うが、正答率は先の前置詞フレーズと同じくらい。この語順もさほど難しくないようだ。

“喜欢”の文型

★これも準4級から3級まで出題されている。

準4級 我很喜欢听音乐。94-3-12

4級 喜欢画画儿。93-5-3

3級 我最不喜欢一个人吃饭。93-3-9 (64.4) ★“一个人”の位置を問うているのか。

否定

“是”の否定

準4級 92-**3**-(13), 94-**3**-(11) ★ともに正答率が高い。

「テンス・アスペクト」

★ここでは、“了”がいろんな文型で出てきているほか、“…过”の否定、進行・持続とりわけ持続の3大用法が出そろっている。つまり(1)主文(2)V着V(3)存現文、学習者は(2)が苦手。存現文は以下でも7割強が正解。

3級 在超市买了一支圆珠笔。92-**5**-(2)

V过の否定

4級 没有吃过 92-**2**-(3)

進行・持続

4級 在玩游戏呢。92-**2**-(6) (63.2), 在睡觉呢。93-**5**-(4), 正在体育馆打排球。94-**3**-(5)

★最後は進行と前置詞とを兼ねた例。

在车站等着你呢。93-**3**-(9) (70.5), 下着雪呢。94-**2**-(8) (72.5), 用手指着告诉我。94-**4**-(5) (32.6)

★最後の例は苦手なようで、“地” (21.7), “的” (18.3), “得” (27.3) と答えが分かれる。

3級 走着去。92-**2**-(1) (52.4), 别开着车打电话。94-**3**-(2) (55.8), 身上穿着一件白衬衫。93-**3**-(8) (63.3)

存現文

4級 桌子上放着几本书。93-**3**-(6) (74.7), 车站前面放着很多自行车。94-**3**-(1) (74.4)

我们学校来了一个新同学。93-**3**-(1) (77.2)

3級 刚才来了一个电话。92-**3**-(8) (71.3), 前面来了一个人。94-**3**-(8) (57.1)

★存現文は8割近くが正解であるが、最後のは悪かった。93回の4級にはタイプは違うが二種類の存現文が出題されている。

“是…的”構文

4級 是骑自行车来的。92-**3**-(5) (74.1), 是什么时候来的? 93-**2**-(8) (66.8) - “了” (22.7)

★“了”を選択肢に入れると正答率が落ちる。入れるべきである。

3級 你在哪儿吃的午饭? 92-**3**-(6) (64.0), 你是怎么来的? 93-**5**-(4)

★目的語が来ると“的”の位置が不安定になるのか正答率が下がる。

近い過去・近い未来の表現

4級 刚来中国一个星期。92-**4**-(4)

★文としては難しい。“刚” (56.8), “在” (28.1)。刚来的时候 93-リスニング**2**

4級 快要…了 92-**2**-(5) (69.3)

3級 就要来看我了。93-**3**-(1) (75.0), 快要毕业了。92-**5**-(5)

動量・時量と動詞、目的語の語順

★この分野は日本人が苦手なもの。現実にはすべてが出そろっているのはおかしいかも知れないが、中国語の語順では特に大事な点なので続けて出してほしい。

4級 喝过一次绍兴酒。92-**3**-(4) (57.4), “喝过绍兴酒一次” (27.0) ★これでは正答率は6割弱である。

我/昨天看了[一个小时]电视。92-**3**-(6) (70.4)

★この問題では“了”を選んだ答えが(25.2)であった。つまり、“一个小时看了电视”と考えたのである。

もし、“昨天”を問題の外に出し“电视”を問題選択肢に入れば“看了电视一个小时”のような答えも出たであろう。

他昨天工作了八个小时。93-**3**-(3) (66.7)

★これも動詞と動量を逆にした“八个小时工作了”が(32.0)に上る。

学汉语学了三年了。94-**3**-(2) (40.7)

★いわゆるコピー構文にとまどったか正解は4割。“学了汉语三年学了”が(29.3)と高い。最後の“学”は余計か。

3級 学了几个小时汉语。92-**3**-(1) (51.3)

★この文では選択肢が増え，“学了汉语几个小时(30.9)”が3割強も占める。逆に4級では多かった“几个小时学汉语了”は(12.1)であった。次の問題でも正答6割，誤答3割である。

在家看了三个小时电视。94-**3**-(6) (58.8)，“看了电视三个小时”(29.8)，大学毕业几年了？93-**3**-(2) (61.2)

★ここでは持続動詞の例が多いが，“毕业”は変化動詞の例。さらに“毕业大学”との混同もあり難しいが，今後も“来日本一年了”のような文を正しく作れるかという問いは出してほしい。

帮我看一下行李 93-**3**-(4)

★選択肢はもっと工夫してもよい。このタイプで間違う例は“帮我看行李一下”だが選択肢にない。また，“帮我一下看行李”という例も学生はよくつくる。

その他。一定要再来一次。93-**3**-(5)，你能不能再写一遍？94-**5**-(4)

補語

★結果補語，方向補語，状態（様態）補語が出ている。

4級 老师走进教室来。94-**3**-(4) (43.2) ★これはできが悪い。選択肢に“走进来教室”がほしい。
唱[得]非常好 94-**2**-(3) (87.6)，听不[懂] 94-**2**-(6) (73.6)，回[得]来 92-**2**-(7) (61.9)
看[得]清楚 93-**2**-(2)

3級 找[到] 92-**2**-(5) (79.7)，看完了 93-**5**-(1)，没想到 93-**4**-(3)，被人骑走了 94-**3**-(10) (82.8)

换成 92-**3**-(2) ★このうち“没想到”と“换成”は補語を聞いているわけではない。

坚持下去。92-**2**-(7) (33.9)，没听出来。93-**2**-(5) (35.7)，暖和起来。94-**2**-(5) (84.9)

鼓[起]掌[来]。94-**4** ★方向補語は3級では派生義が多く出るが，正答率は“起来”を除き高くない。

走得非常快。92-**3**-(9) (78.9)，你的汉语怎么说得这么好？93-**3**-(3) (51.0)

忙得没时间去买东西。94-**3**-(3) (79.0)

★それぞれ出題形式は違うが，それほど悪くない。最後の結果を表す用法もよくできている。

过不去 92-**4**-(1) (34.3)

★“没去过”が(39.9)もあった。これは学習者が“过去”という方向動詞に慣れていないこと，また，“过不去”と変化の“了”と共に起して「通れなくなった」ということばの理解ができていないからでもあろう。

听不清楚 92-**5**-(4)

比較

比較（優劣・同等）とその否定形は全般によく出ている。

4級 男学生跟女学生一样多。92-**3**-(1) ★これを「同じくらい多い」と訳するのは間違い。同じくらいだの意味。
比我大两岁。92-**3**-(3) (64.2) ★不正解の“两岁大”は(31.9)である。これは続けて出題してほしい。

比[我]小三岁。93-**3**-(10) (90.7)

★“我”が正解でも，後ろの“小三岁”が“三岁小”になっている可能性も高く，肝心のところを聞いていないことになる。

今天比昨天冷。93-**5**-(1), 这件衣服 [比] 那件衣服便宜。94-**3**-(9) (87.9) ★あまりよい問題とはいえない。

比較の否定・比較の応用

4級 北京没有广州(那么)热。92-**5**-(2)

3級 像花园一样美丽。92-**3**-(7) (59.5) ★これは難しかったようだ。

比以前好多了。92-**3**-(4) ★この“多了”は変化の場合。

比… [更] 有意思。94-**2**-(4), 没有他那么好。93-**3**-(10) (91.8)

★正答率が高い。同じ回にこれと似た次の作文が出ている。没有上次难。93-**5**-(2)

複文(緊縮文)

[一] 听到我的声音, [就] 抬起头来看我。94-**4** ★“一…就”は3級ではよく出ているが, ここでは4級の長文に訳を問う問題として出ている。正答率(63.2)。4級ではやや難しいか。

動詞フレーズが主語

去…得坐公交车。94-**5**-(2) 協会の解答は“公共汽车”になっている。

複文は3級の独壇場である。

○時間の後先・同時

一…就 [一] 见…[就]哭着说: 92-**4**-(4) (83.8), [一] 看到…[就] 会回忆起。94-**4**-(1) (82.8)

★ともに, 長文の穴埋め問題。これはともに正答率が高い。

一边…一边… 92-**2**-(2) (81.6)

先…再 92-**2**-(9) ★ただし, 設問外。

○仮定・条件

…的话 92-**4**-(2) (69.3)

○原因 ★“因为”の二つの用法が出ている。

因为 なぜなら 92-**4**-(3) (71.9)

因为今天喝酒,我不能开车 …なので, … 93-**5**-(3) ★協会の正解では“因为”を省く。

○逆接

虽然…但是 92-**2**-(6) (87.9)

尽管…但是 94-**2**-(6) (58.6) ★後者の正答率が低いのは“尽管”にあまり慣れていないからであろう。

○包摂

不管…都 92-**2**-(7) ★これは設問外。

无论…都 93-**2**-(6) (56.4) ★正答率は低い。

○添加

不但…而且 92-**2**-(10) (75.5)

除了…还 92-**3**-(3) (82.7), 93-**4**-(5) (47.2), 94-**2**-(7) (90.1)

★同じ“除了…还”でも正答率に差が生じたのは, 92回と94回がきわめて典型的な文であるのに対し, 93回の例は長文中での用法で, しかも“除了是…”と一般の動詞ではなく“是”が来ていて難しかったからであろう。

越…越 94-**2**-(10) (75.5)

○2017年度（第92・93・94回）中検試験問題に対する評価と意見

山梨大学 町田 茂

この度2017年度の準4級・4級・3級試験問題について検討する機会をいただいた。ここでは、学習現場において試験問題をどのように受け止めるかという観点から私見を述べさせていただきたい。

1. 語彙に関して

問題全体を通して、新語や近年新たに生じた語義、日本語に由来する語彙をどの程度用いるかが気になった。

新語としては、例えば“高铁”（92回3級リスニング²）のようなものをどの程度使用するか今後も慎重に検討していただきたい。レストランに相当する中国語として“餐厅”（94回3級筆記⁵）以外に“饭店”（94回4級筆記³）も出題されているが、後者は近年浸透してきた新しい語義である。日本料理についても“日本菜”（92回4級リスニング²）以外に“日本料理”（92回3級リスニング¹）が出題されているが、後者は中国語としては《现汉》第6版から注釈〈方〉が削除された新しい語義である。93回3級リスニング²では「東京、大阪、京都、北海道、沖縄」という日本の地名が中国語で発音されていたが、3級の受験者に求められる日本の地名の中国語発音の範囲について今後も慎重に検討していただきたい。92回3級筆記¹の“寿司”もここで敢えて出題する必要があるのか気になった。

2. 頻出する題材に関して

検定試験という性格上特定の題材が頻出することはやむを得ないとも言える。4級以上において“是…的”や比較を表す表現、介詞“离”などは繰り返し出題されている。

3. 出題形式に関して

3.1 4級・3級の³は1も2も語句を並べ替える問題である。このうち1における誤答の選択肢は意味の通じないものが多く、日本語を見なくても正解を導き出すことができる。以下に例示するように、多少意味の通じる選択肢を用意してもよいのではないか。

(1) わたしはあなたの文章の意味がどうしてもわからない。(94回3級筆記³-(1))

- ①我怎么也看不懂你的文章。
- ②怎么我也看不懂你的文章。
- ③我看怎么也不懂你的文章。
- ④我也怎么看不懂你的文章。

3.2 4級・3級の², ³は教科書に例文として示された単文の記憶を問うような性質の問題である。教材に示された単文を記憶するという学習方法は多くの教育現場で支持されているようだが、その一方で、これらの単文がどのような環境や発話意図に相応しいのかという点も学習しなければならない。しかし、現在の中検問題では、単に単文の記憶を問うような出題が目立つ。

(1) 我(把)手机忘在电车上了。(92回3級筆記²-(3))

(2) わたしはカギを家に忘れました。我把钥匙忘在家里了。(93回3級筆記³2-(7))

(3) わたしはこの事を彼に教えたくない。我不想把这件事告诉他。(94回3級筆記[3]2-(7))

学習者にとってここで“把”構文が使われることに気づくこと自体が大きな課題だが、(1)(2)のようにほぼ義務的に“把”構文が使われる場合でも選択肢に“把”が示されている。

3.3 長文を用いた文章題では長文を生かした出題が望ましい。

(1) 他们是一(对)夫妇。(93回3級筆記[4]-(1))

ここでは“夫妇”に相応しい量詞を問うているが、これは[2]で問うような性質の出題である。一方、

(2) 彼女は白いブラウスを着ています。她身上穿着一件白衬衫。(93回3級筆記[3]2-(8))

は、単文の記憶を問うような出題であるが、このような文が長文中のどの位置に相応しいかを問うような出題も検討してみる価値が有るのではないだろうか。

4. 日本語と中国語の対応

試験問題における日本語と中国語の対応にどの程度の厳密さを求めるかについて様々な意見が存在するが、以下のような出題については再考を求めたい。

(1) 男子学生は女子学生と同じくらい多い。男学生跟女学生一样多。(92回4級筆記[3]-(1))

同様の表現“汉语课和英语课一样多。”に対し、92回3級リスニング[1]-(3)の解答解説は「中国語の授業数は英語と同じくらいです」という日本語訳を示している。上記(1)もこれと同様の日本語を示すべきであろう。

(2) きょうはあまり気分が良くありません。今天不太舒服。(93回準4級筆記[3]3-(11))

この場合、中国語では“我”が欲しいのではないか。

(3) 94回4級筆記[4]-(2)ではパンダを指す“它們”を「彼ら」と訳しているが、「彼ら」が日本語として自然かどうか疑問が残る。

5. 関連した題材の重複について

中検では、関連した題材がしばしば同一の試験問題冊子において複数回現れる。このような重複をどの程度許容するのか、検討の余地が有るように思われる。

(1) a 我(把)手机忘在电车上了。(92回3級筆記[2]-(3))

b わたしはもう日本円を人民元に替えました。我已经把日元换成人民币了。(92回3級筆記[3]1-(2))

(2) a 我是跟我妈妈一起吃的晚饭。(92回3級リスニング[1]-(7))

b あなたはどこで昼ごはんを食べたのですか。你在哪儿吃的午饭?(92回3級筆記[3]2-(6))

(3) a 大木が台風吹き倒されました。大树被台风刮倒了。(92回3級筆記[3]2-(10))

b 去市场的桥和路都被洪水淹没了……(92回3級筆記[4]問題文)

(4) a わたしは今まで入院したことがありません。我从来没住过院。(92回3級筆記[3]1-(5))

b あなたは英語で手紙を書いたことがありますか。你用英语写过信吗?(92回3級筆記[5]-(1))

(5) a 我在做作业呢。(92回4級リスニング[1]-(6))

b 弟弟在玩游戏呢。(92回4級筆記[2]-(6))

(6) a わたしはきのう1時間テレビを見ました。我昨天看了一个小时电视。(92回4級筆記[3]2-(6))

b 我学了半年汉语了, …(92回4級筆記[4]問題文)

(7) a お母さんはわたしにゲームをさせてくれません。妈妈不让我玩儿游戏。(93回3級筆記[3]2-(6))

b 这让我想起了大学里的那两位教授。(93回3級筆記[4]問題文)

(8) a わたしの発音は彼ほど上手ではありません。我的发音没有他那么好。(93回3級筆記[3]2-(10))

- b 今回の試験は前回ほど難しくありませんでした。这次考试没有上次难。(93回3級筆記⁵-(2))
- (9) a 彼女は駅であなを待っています。她在车站等着你呢。(93回4級筆記³2-(9))
- b 有一个人 ^在 机场等飞机, … (93回4級筆記⁴-(1))
- (10) a 彼はわたしより3つ年下です。他比我小三岁。(93回4級筆記³2-(10))
- b きょうはきのうより寒い。今天比昨天冷。(93回4級筆記⁵-(2))
- (11) a 彼の自転車は誰かに乗って行かれてしまった。他的自行车被人骑走了。(94回3級筆記³2-(10))
- b 我装在了两个纸箱里, 给孩子们邮走了。(94回3級筆記⁴問題文)

6. 学習の重点と出題との関連

中国語学習の重点をどこに置くかという点において、教師間に異なった見解が存在する。ここではそれをハードタイプ、ソフトタイプに二分してみたいと思う。

ハードタイプ	ソフトタイプ
学習の重点：重要単語・文型やそれらを使った教科書の用例や文章の記憶に重点を置く。	学習の重点：重要単語・文型が文脈や発話意図との関連で用いられる因果関係に着目する。
学習方法：重要単語・文型の用例をできるだけ多く暗記する。 教師が求める学習到達点が明らかで、比較的明確な基準で学習者の成績評価を行うことができる。	学習方法：多義語・多機能語の意味や用法を文脈や発話意図との関連で理解したり、文脈や発話意図に相応しい文型を選択するための語感を養成する。 こうした推理力や語感は学習到達点として明示しにくい。

これを前提として考えると、中検問題にはこの二つのタイプが含まれており、正解・不正解の基準をどこに設定すべきかという点において今後も慎重な検討をお願いしたい。

6.1 ソフトタイプに近いと思われる出題

(1) リスニングの内容

- 小军：小芳，朋友给了我两张电影票，你想去看吗？
- 小芳：小军，朋友为什么不跟你一起去呢？
- 小军：我朋友今天感冒了，他要去医院。
- 小芳：是吗？那我去。电影是几点的？
- 小军：是下午三点的。
- 小芳：我们在哪儿见面呢？教室还是食堂？
- 小军：在学校门口，怎么样？
- 小芳：没问题。几点出发？
- 小军：十一点，怎么样？
- 小芳：太早了吧。
- 小军：不早。咱们先去吃午饭。
- 小芳：好啊，我喜欢吃日本菜。
- 小军：日本菜、中国菜、法国菜我都喜欢。
- 小芳：那我们去吃日本菜吧。
- 小军：好，我在学校门口等你。
- 小芳：那我们一会儿见。

問：小芳喜欢吃什么菜？ 答：她想吃日本菜。（92回4級リスニング[2]-(5)）

ここでは“喜欢吃什么菜？”という問いに対し“想吃日本菜”という答えを正解として認めている。

(2) リスニングの内容

A：你发烧吗？吃药了没有？

B：有点儿发烧，医生说不用吃药。

A：医生还说什么了？

B：医生要我多喝水，好好儿休息。

問：医生是怎么跟小李说的？ 答：不让她吃药，让她多喝水，多休息。（93回4級リスニング[2]-(3)）

ここでは“医生说不用吃药”を伝える表現として“不让她吃药”を正解としている。

(3) A：你能看懂中国的电视吗？

B：不能，我只能看懂中文报。（94回3級リスニング[1]-(3)）

ここでは“你能看懂中国的电视吗？”に対する否定の答えとして“不能。”を正解として認めている。

6.2 ハードタイプに近いと思われる出題

ソフトタイプの学習では「こんな場面ならこんな発話意図でこのような表現が使われる」といった推理が行われ、

6.1 で示したのはこのような推理力を求める出題のように思われるが、その一方でこのような推理力が正解に反映されないことが有る。

6.2.1 推理によって得られる可能性を正解として認めない

(1) ほめられたときに中国語ではどのように言うのか。

②没有，没有！（不正解）

③哪里，哪里！（正解）（94回準4級リスニング[2]-(9)）

③はしばしば日本の教科書に取り上げられているが、母語話者には②を自然な答えと認める人もいる。

(2) ②弟弟能玩游戏呢。（不正解）

③弟弟在玩游戏呢。（正解）

④弟弟都玩游戏呢。（不正解）（92回4級筆記[2]-(6)）

②を「弟は賢くてゲームができるよ」と解釈してもここでは不正解として扱われる。また，“弟弟”にストレスを置いて発音される“'弟弟都玩游戏呢。”「（普段ゲームをしない）弟さえゲームをしているよ」もここでは不正解とされている。

(3) ②我就没吃早饭。（不正解）

③我还没吃早饭。（正解）（92回4級筆記[2]-(10)）

“我”にストレスを置いて発音される“'我就没吃早饭。”「私が朝食を食べていません（朝食を食べていないのは私です）」はここでは不正解とされている。

(4) ②我们不是吵架，（可是）说话的声音大了一点儿。（不正解）

③我们不是吵架，（只是）说话的声音大了一点儿。（正解）（93回3級筆記[2]-(10)）

話し声の大きさをおおごとと感じさせる②はここでは不正解とされている。

(5) ②他（就是）工作很忙，但是每天还坚持锻炼身体。（不正解）

③他（尽管）工作很忙，但是每天还坚持锻炼身体。（正解）（94回3級筆記[2]-(6)）

“就是”にストレスを置いて発音される“他'就是工作很忙，…”「彼は何と言っても仕事が忙しい」はここでは不正解とされている。

学習者の立場から見ると、不正解となる選択肢は、「中国語としてこのような言い方は存在しない」と解釈されることになる。

6.2.2 推理によって得られる複数の表現形式の中で一部だけが採用される

動作の継続時間量に関する表現は中検では以下のように出題されている。

- (1) きのうあなたは何時間中国語を勉強しましたか。昨天你学了几个小时汉语？（92回3級筆記³1-(1)）
- (2) わたしはきのう1時間テレビを見ました。我昨天看了一个小时电视。（92回4級筆記³2-(6)）
- (3) 我学了半年汉语了，…（92回4級筆記⁴問題文）
- (4) 彼は家で3時間テレビを見た。他在家看了三个小时电视。（94回3級筆記³2-(6)）

ここで求められているのは「述語（動詞）＋時間量＋賓語（目的語）」という語順である。一方中国語の使用例を観察してみると、動作の継続時間量に関する表現は以下に示すように多様で、これらが話者の発話意図や情報の重要度により使い分けられている。

- a 汉语昨天你学了几个小时？
- b 我汉语学了半年了。
- c 我学习汉语半年了。
- d 他昨天在家看电视，看了三个小时。
- e 我每天看电视三个小时。

学習者にとってはこのような多様な表現をどのように適切に使い分けるのかというもう一つの課題が有り、これは単純な日中対訳では説明しきれない。

- (5) 人に感謝されたとき

哪儿的话！（93回準4級リスニング²-(9)）

“哪儿的话”は確かに日本の中国語教科書に記載されているが、今後もこのような教科書的中国語を出題し続けるのかどうか検討をお願いしたい。

7. 出題傾向の低い題材

2. で言及した題材は出題頻度が高く、5. で指摘したように関連した題材が同一の問題冊子に複数回現れることも有るが、その一方で、初中級で学習される題材でも出題傾向が低い場合が有る。以下に示すのは筆者の思い付きであり、過去問を精査すれば出題されているのかもしれない。

- (1) 这块肉有五斤重。
- (2) 每个学生发一本书。
- (3) 大门朝南开着。
- (4) 拉一把
- (5) 他是不是去美国留学？是不是他去美国留学？
- (6) 他又能说什么呢？

2級以上では文学表現や成語が多く問われるようになり、3級からも2級からも除外された題材が有るのかどうか、機会を見つけて精査してみる必要が有るのではないかと思う。